

岩手町椎茸生産組合「ほだ場現地研修会」の実施について

1 はじめに

岩手町椎茸生産組合では、原木しいたけのほだ場の管理を改善し、ほだ付率の向上を図るとともに、生産性の向上及び経営の安定を図ることを目的とし、平成12年度からほだ木コンクールと併せて研修会を実施していますが、今年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、岩手町産業まつり農林産物共進会が中止となったことから、ほだ場の審査は中止となり、ほだ場現地研修会のみで開催となりました。

研修会には、岩手県林業技術センターの佐々木上席林業普及指導員を講師に招き、生産組員10名が参加しました。

2 研修内容

研修会では、事前に作成していただいた生産者カルテを基に、各生産者のほだ場を巡回し、生産者一人ひとりから原木の伐採（購入）時期、仮伏せの時期・方法等を確認しながら、ホダ化の状況を確認しました。



また、ホダ化の状況を確認する試料片（径：約10cm、長さ：15cm）も採取しました。

全生産者のほだ場巡回後に、岩手町役場の会議室に戻り、採取した試料片の皮を剥ぎ、さらに縦に半割にし、ほだ化の状況を確認しました。



参加した10名の生産者のうち、1名の生産者のほだ木は、他の生産者に比べて、一番水が抜けていませんでした。その影響などもありダイダイタケが発生したと考えられました。

佐々木上席林業普及指導員からは、「いずれのほだ場も手をよくかけている印象を受けた。現在の原木は水分の多い生木であることからもう少し深く穴をあけて植菌した方が良いと思う。全体的に、雑菌は少なかった。」との講評がありました。

3 終わりに

10名の生産組員が、それぞれの「ほだ場」を巡回し、ほだ場の状況を確認することは、とても有意義な研修となりました。

今後も、「ほだ場現地研修会」を継続実施し、ほだ場の管理を改善し、ほだ付率の向上を図るとともに、生産性の向上及び経営の安定を図っていききたいと思います。